

神奈川芸術祭

第13回神奈川県美術展



神奈川芸術祭
第13回神奈川県美術展

会期

■昭和53年1月18日－1月29日

コンクール展絵画彫刻立体造形

■昭和53年1月31日－2月12日

コンクール展工芸書写真

■昭和53年2月14日－2月26日

招待展絵画彫刻立体造形工芸書写真

会場

県立県民ホール

主催神奈川県美術展委員会神奈川県神奈川県教育委員会

あいさつ

第13回神奈川県美術展の開催にあたって一言御あいさつ申し上げます。

県内の文化の振興と新人作家の育成を目的とした本美術展は、昭和41年に県内美術関係者の熱意と努力によって誕生したものであります。

当初は絵画・彫刻部門の公募展と招待展で発足いたしましたが、その後工芸・書・写真部門を加えて県内最大規模の美術展に発展してまいりました。

また年々開催ごとに応募点数も増え、質的にも向上し、成果をあげてまいりましたことは、皆様の御承知のところであります。

今回は「神奈川芸術祭」のフィナーレを飾るにふさわしい事業とするため、招待部門を分離・独立させ、3会期に分けて県民ホールにおいて展覧することといたしました。これもひとえに関係各位の絶大なる御協力のたまものと深く感謝いたすところでございます。

終わりに県民の方々の文化意識が高まりつつある今日、本美術展開催の意義はきわめて大きいものと確信し、私ども関係者は引き続き本美術展発展のため一層努力してまいる所存でありますので、今後とも皆様の御鞭撻と御協力を切にお願い申し上げる次第であります。

昭和53年1月18日

神奈川県美術展委員会
委員長 穴水清彦

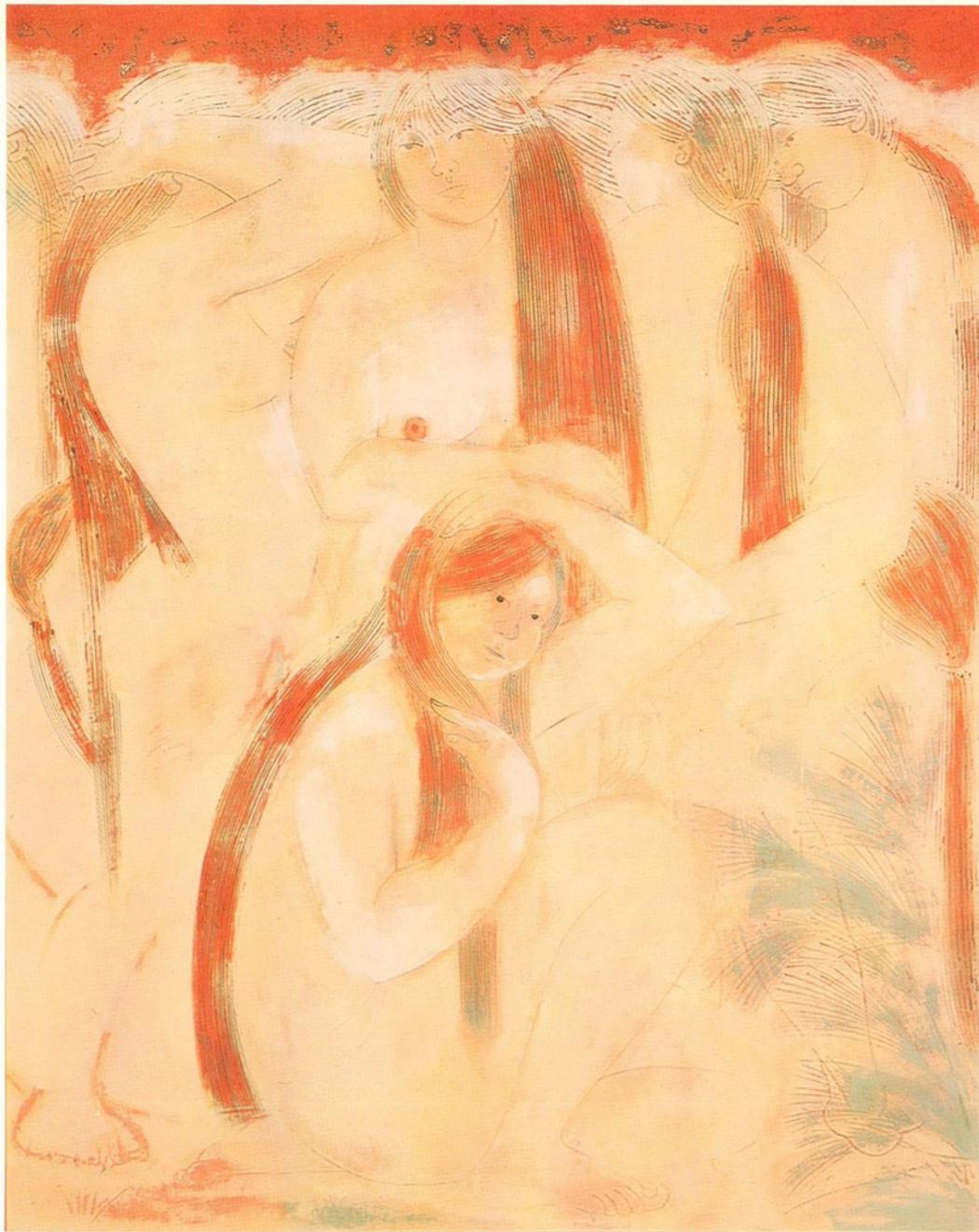
コンクール部門



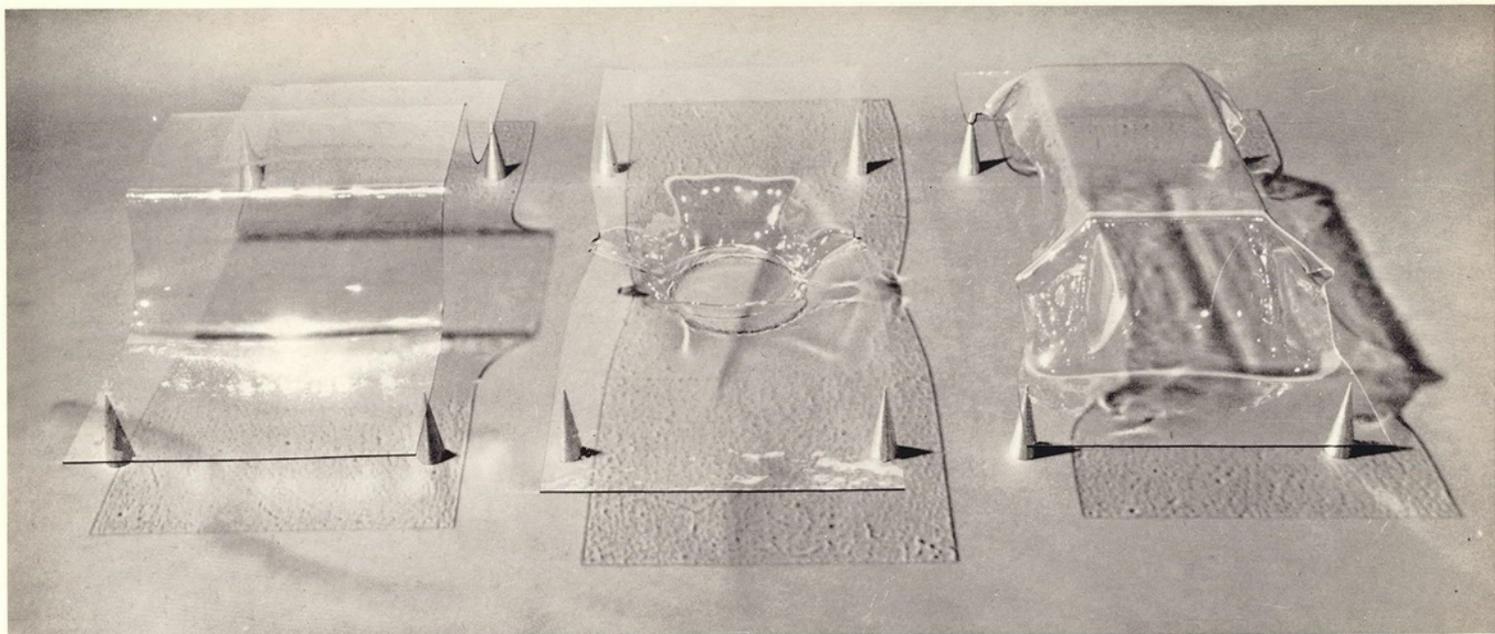
大賞 井上 麦 黒の女-'77 (彫刻)

一頭二頭
子馬子馬
つじつ大馬
つじつ群れ
にたつた
なる

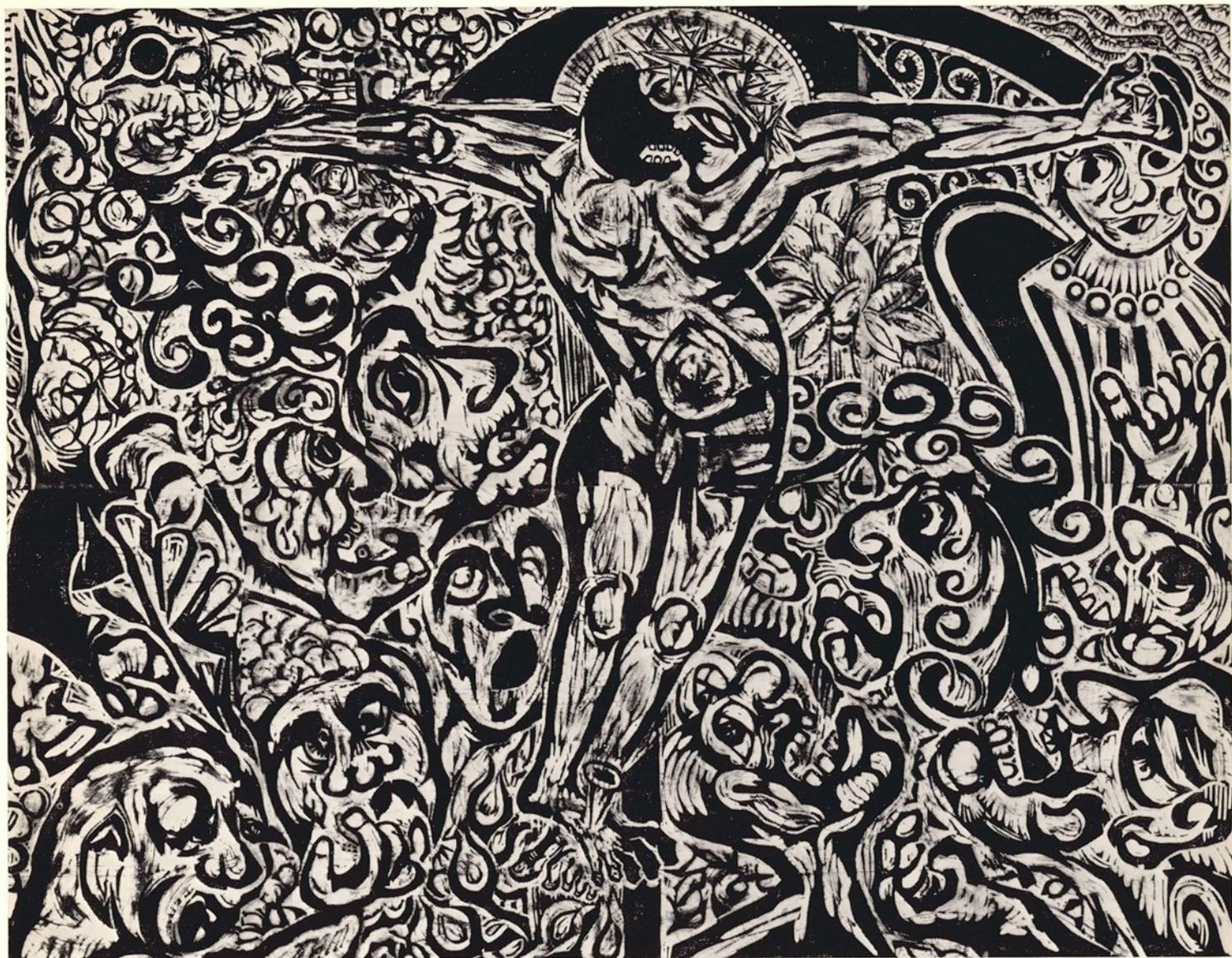
準大賞 伊奈翠陽 近代詩文(三好達治“大阿蘇”より) (書)



準大賞 水谷愛子 髪 (日本画)



特選 金子安規 705°C (立体造形)



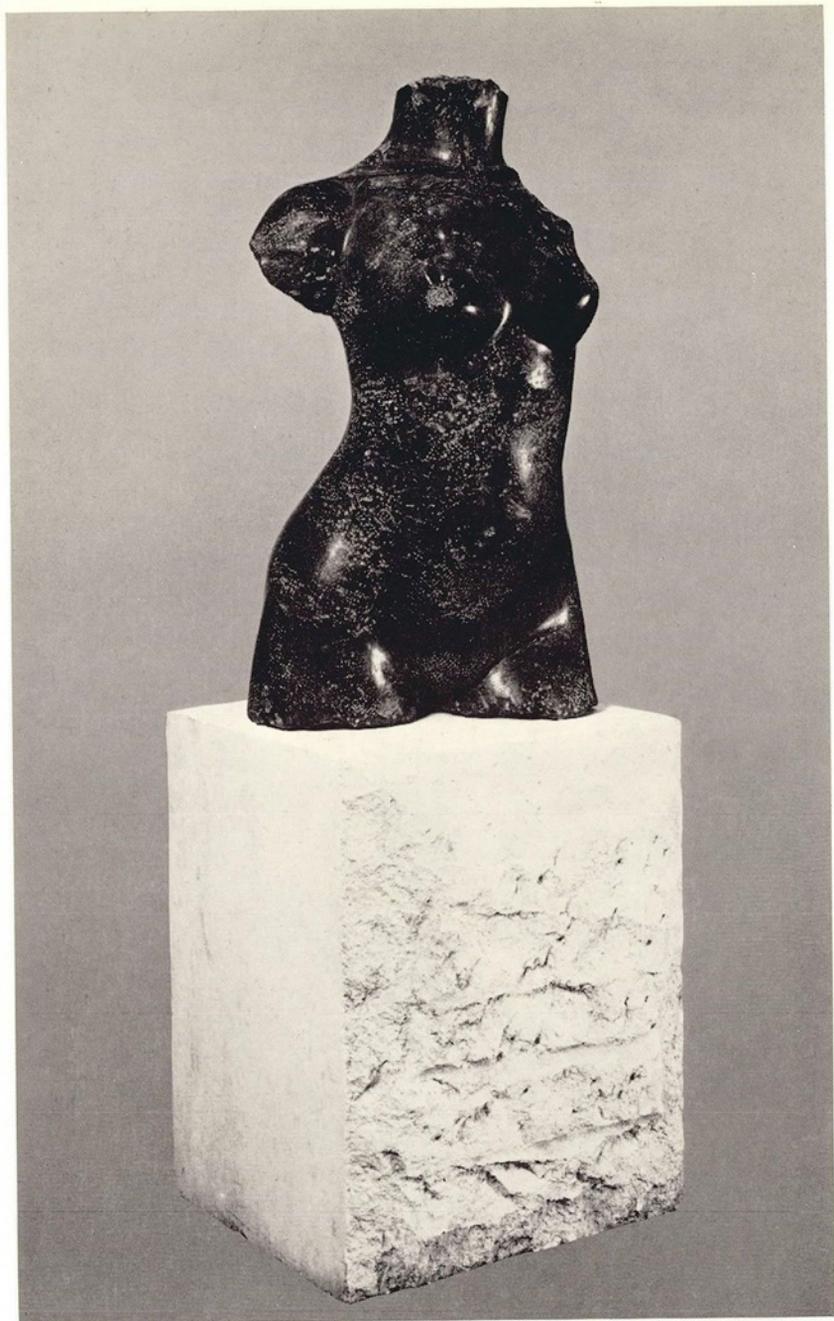
特選 曾我朝彦 磔刑 (版画)



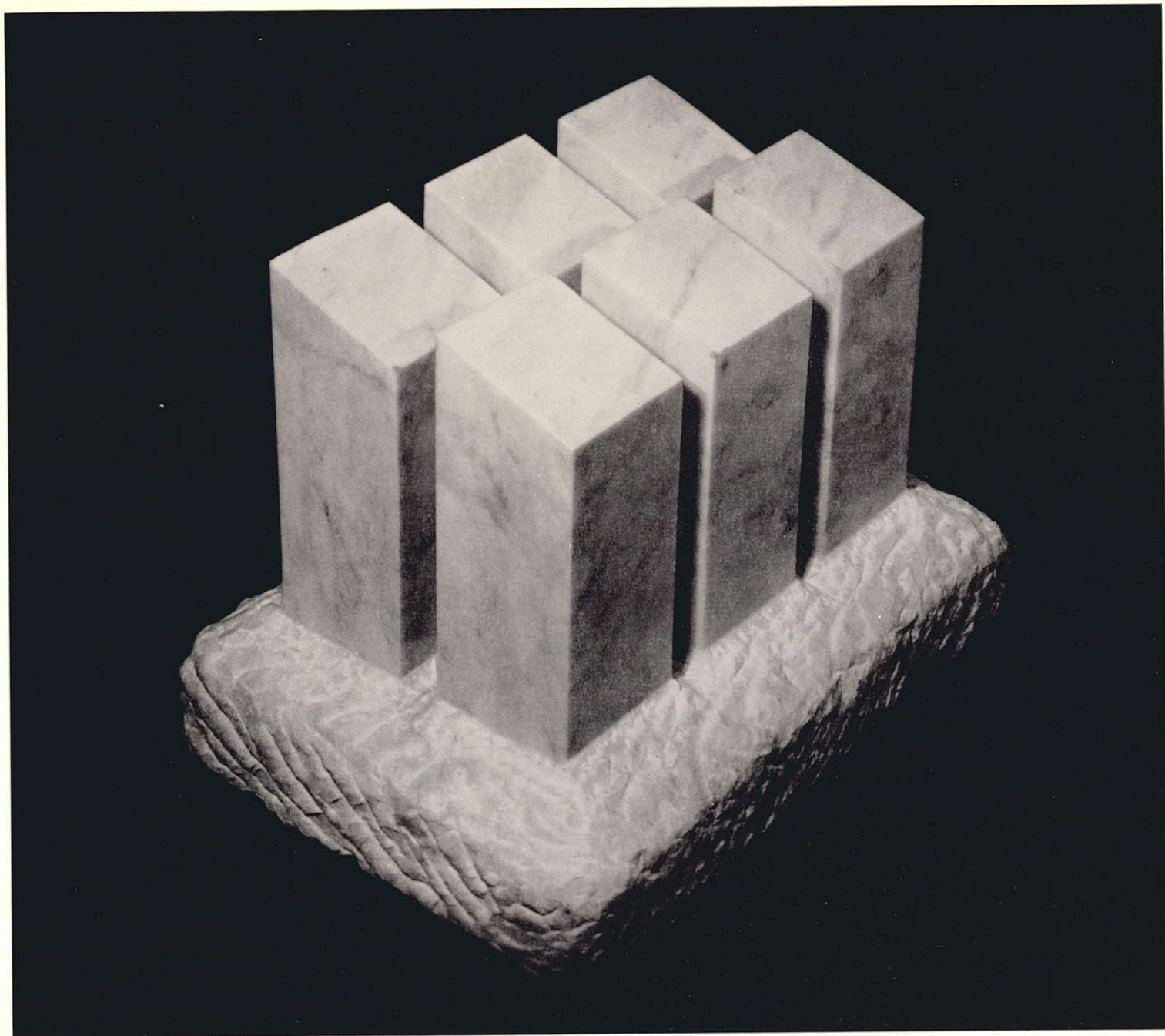
美術奨学会賞 植田曠躬 宙77-23 (洋画)



美術奨学会賞 白井恵之輔 仮定'77-7 (洋画)



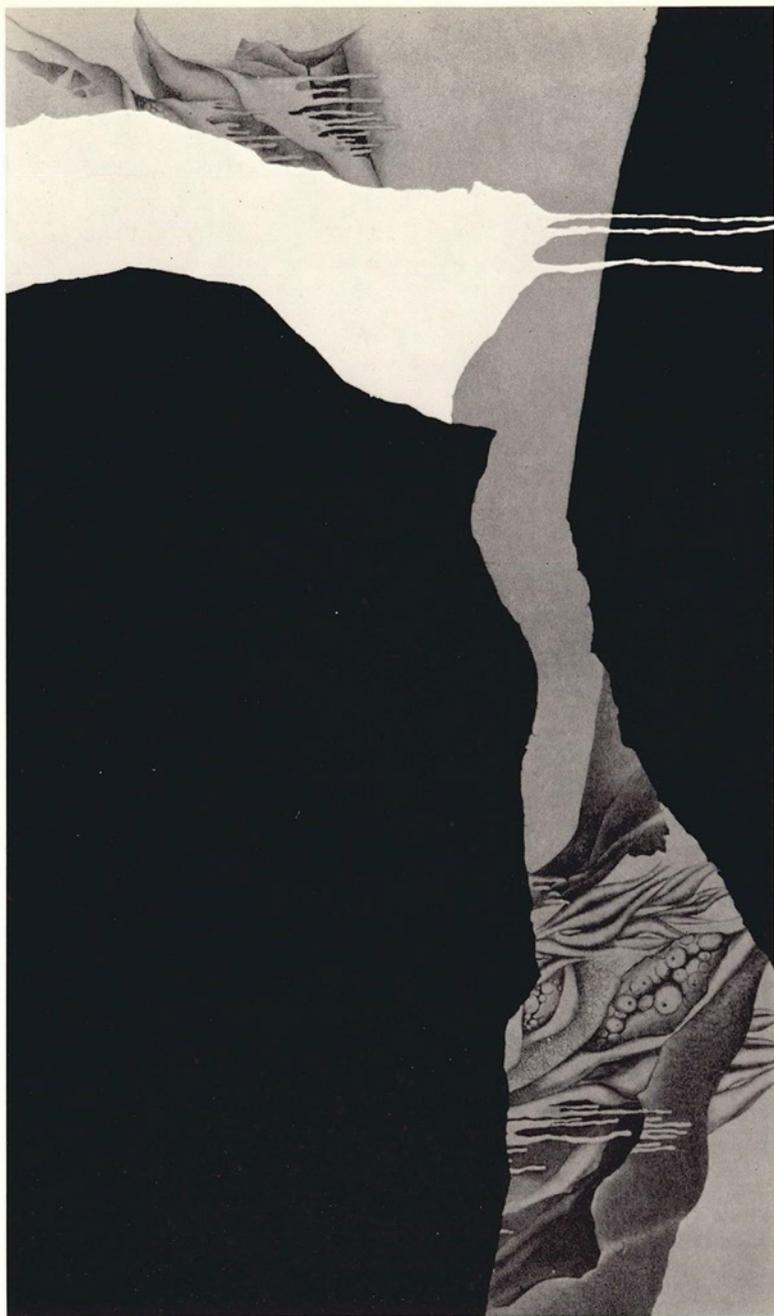
美術奨学会賞 谷川義美 Mのトルソ (彫刻)



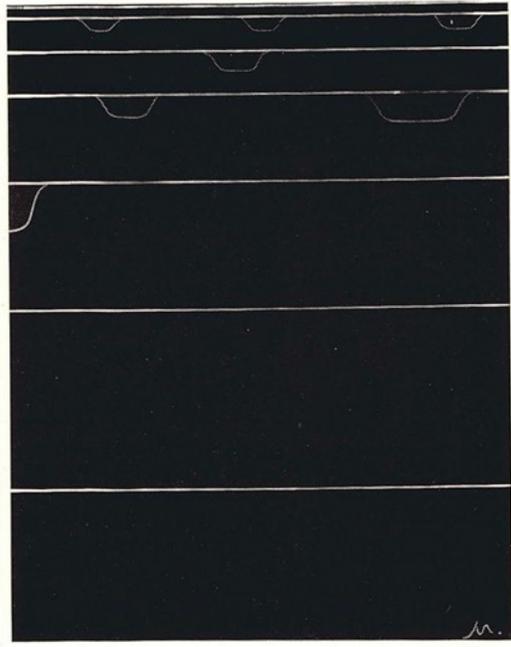
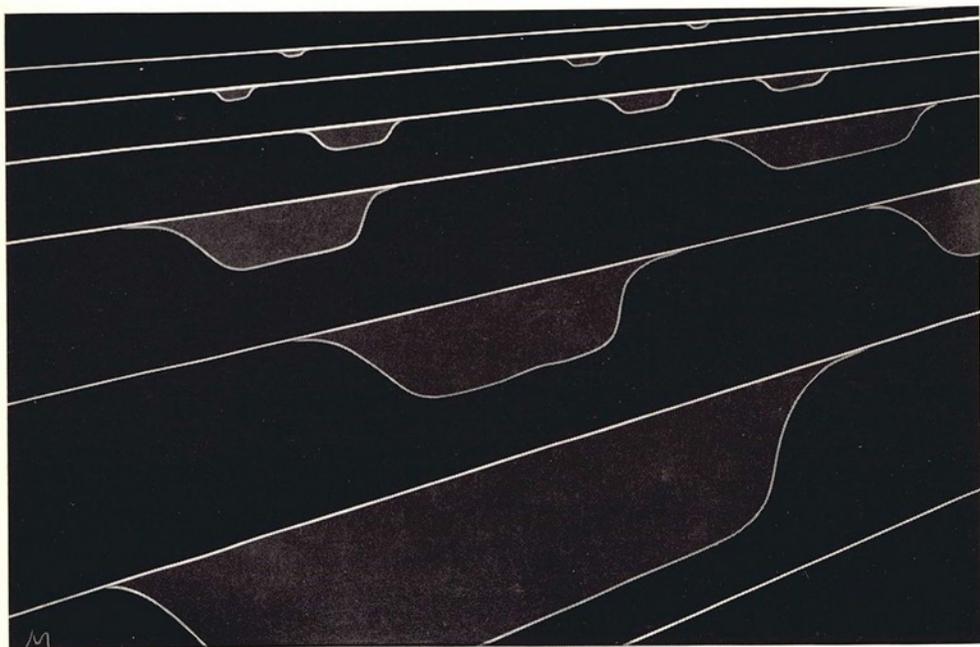
美術奨学会賞 厚地正信 Six Obelisk (立体造形)



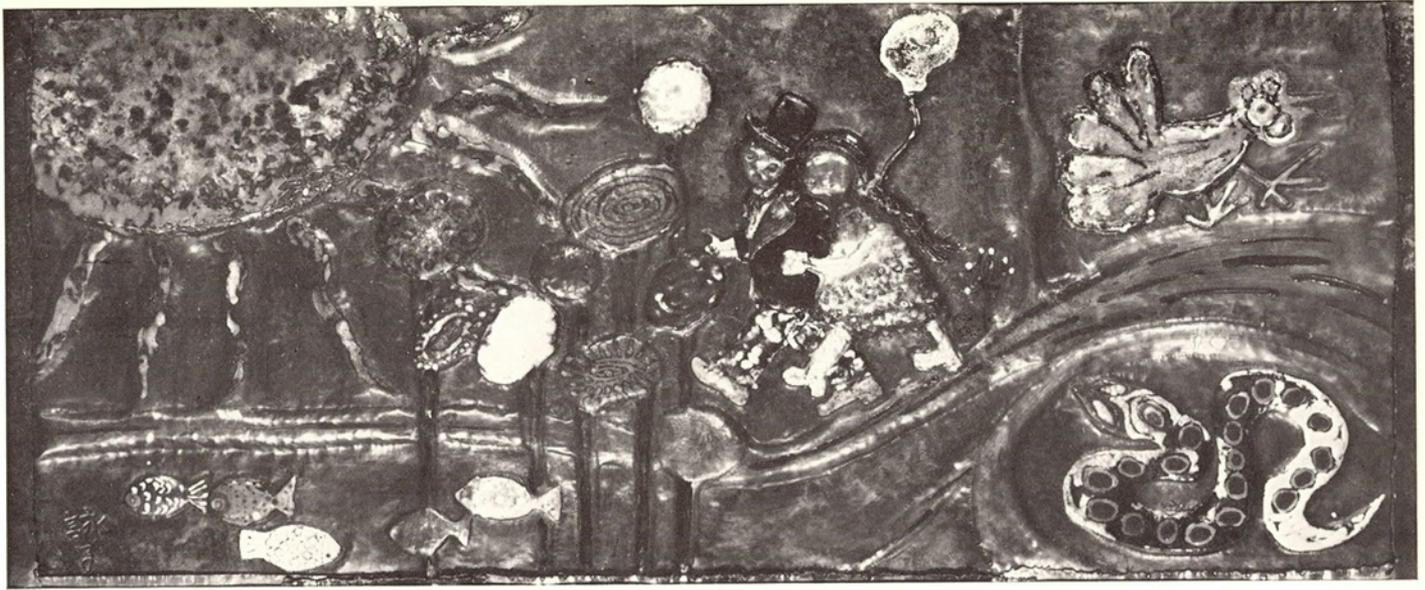
県議会議長賞 鍋島正世 Peach tail weaver (洋画)



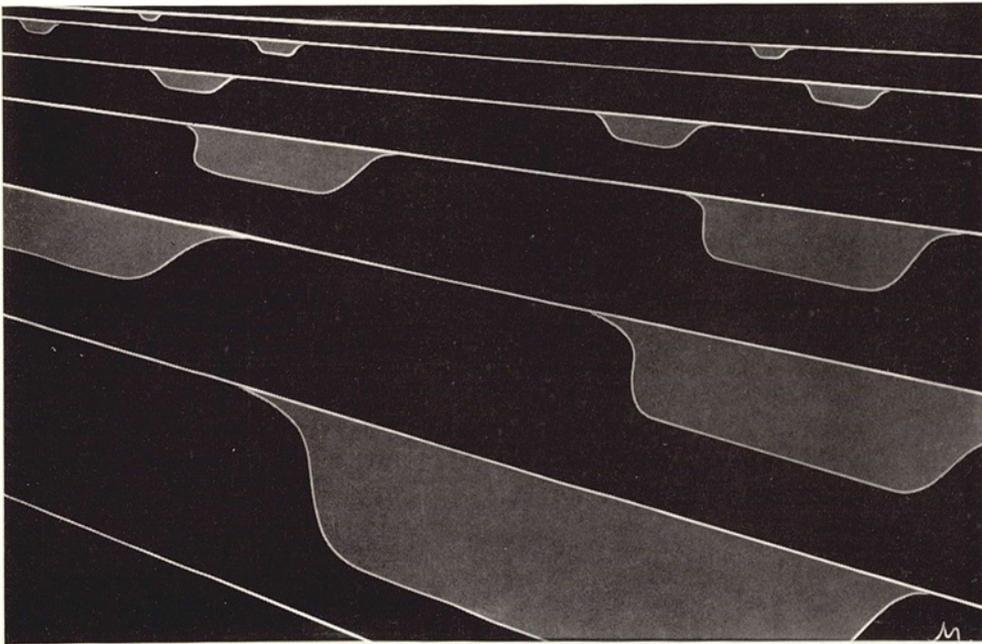
特選 堀内克子 眩夜 (工芸)



特選 三嶋真人 波 (工芸)

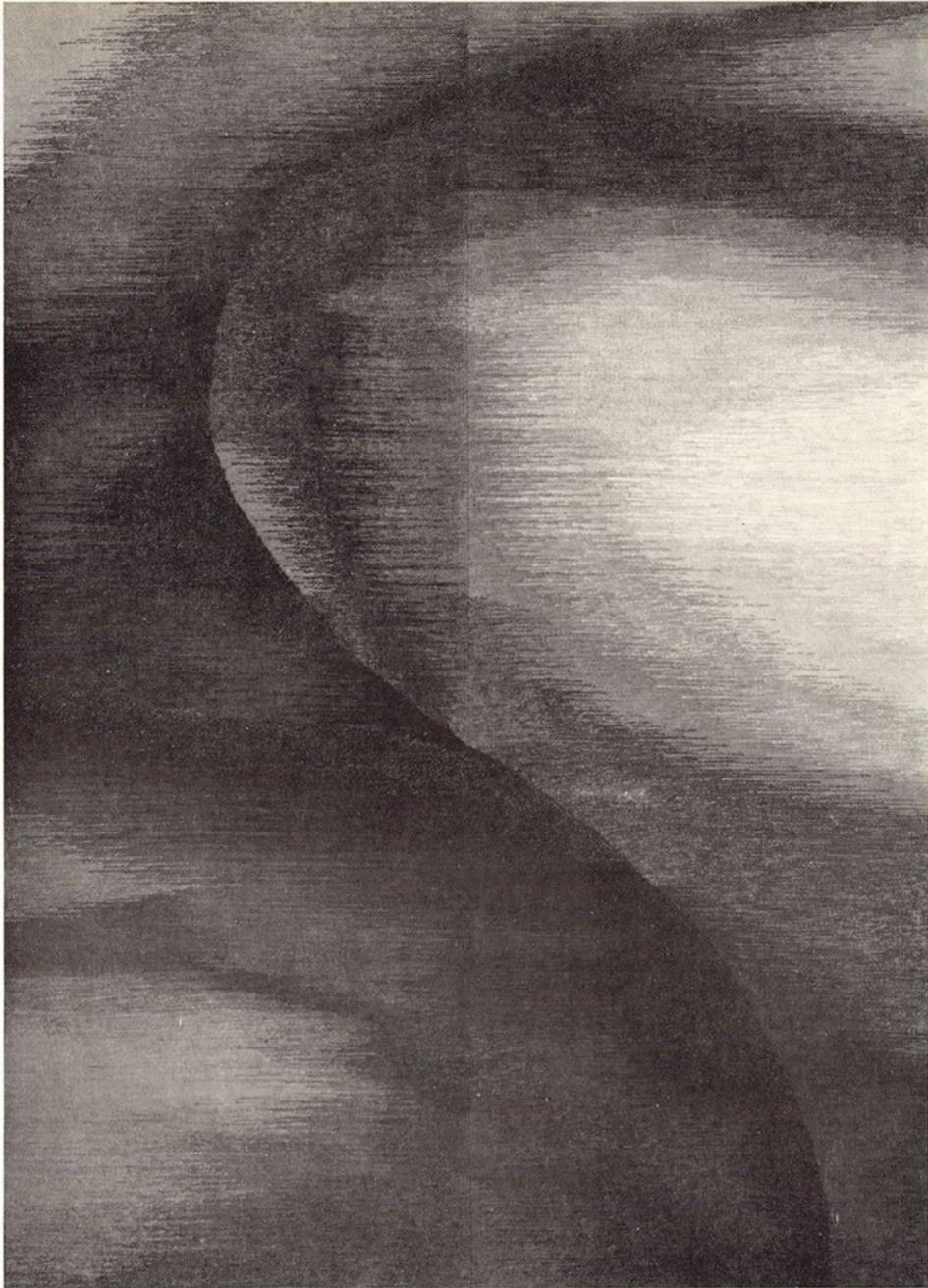


美術奨学会賞 近藤詠子 春のみち (工芸)

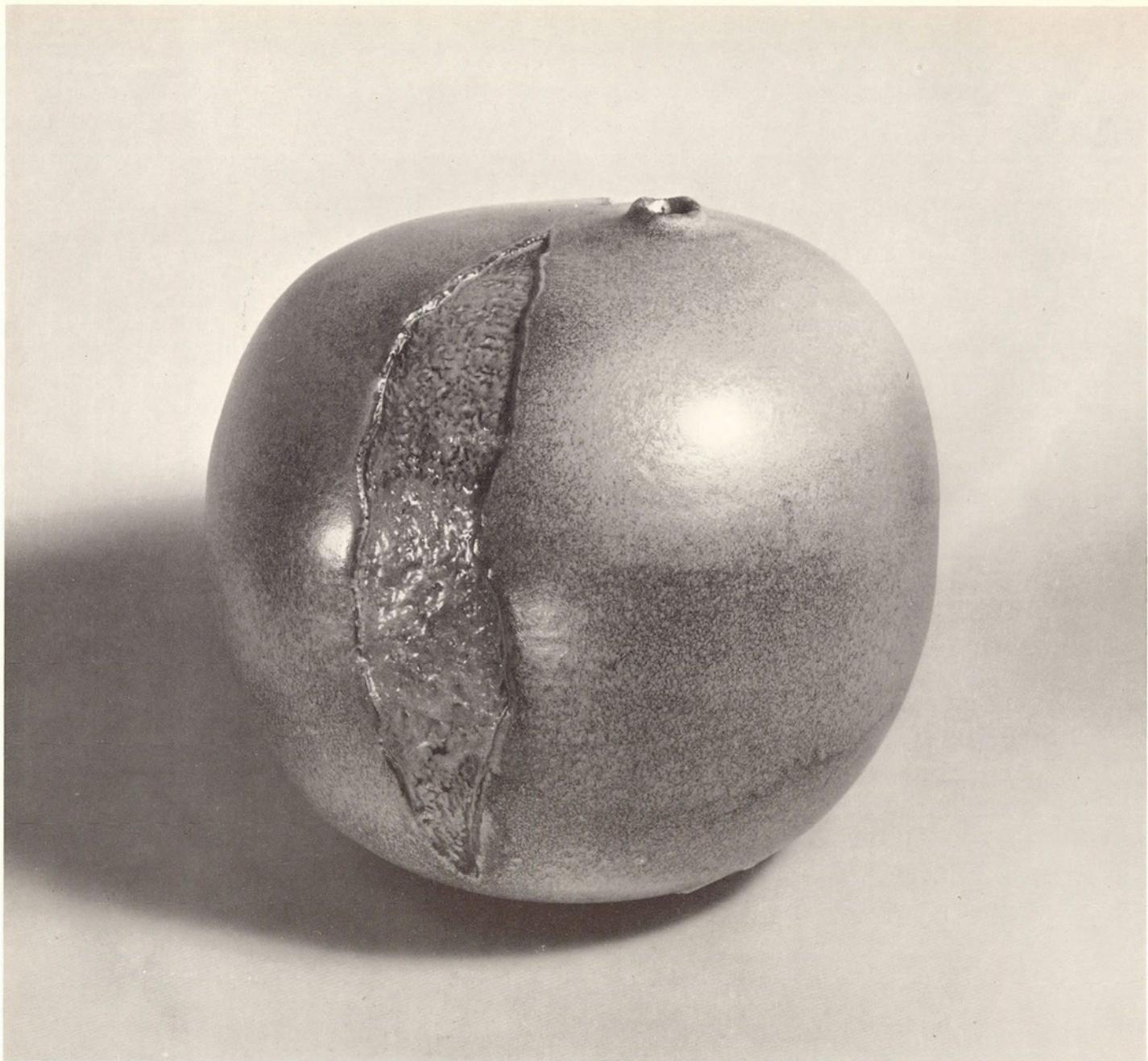




美術奨学会賞 乾 定夫 群想 (工芸)



美術奨学会賞 桂川幸助 NATURAL I (工芸)



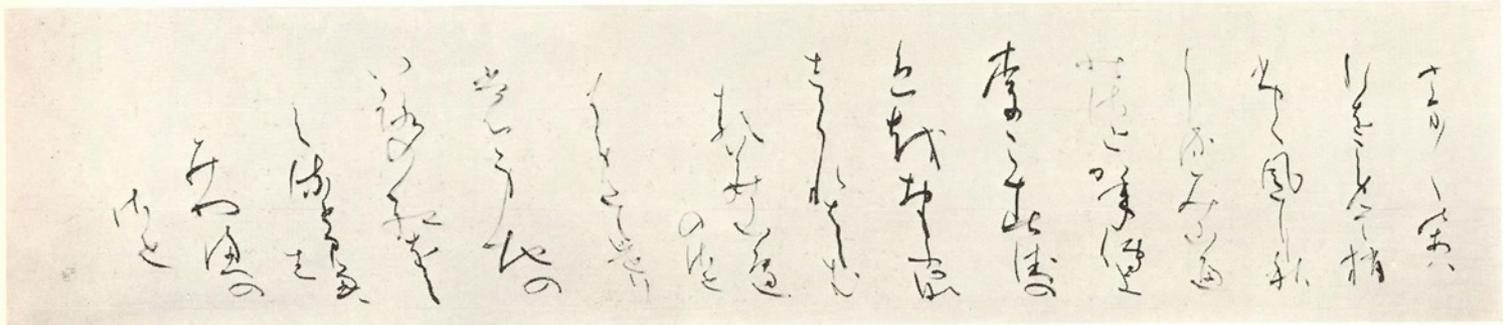
美術奨学会賞 佐藤靖房 断層 (工芸)



美術奨学会賞 渡部はつ子 暮情 (工芸)



美術奨学会賞 竹内鳳仙 窓（書）



美術奨学会賞 小林小笛 深山辺の里（書）



特選 持田高克 新弟子 (写真)



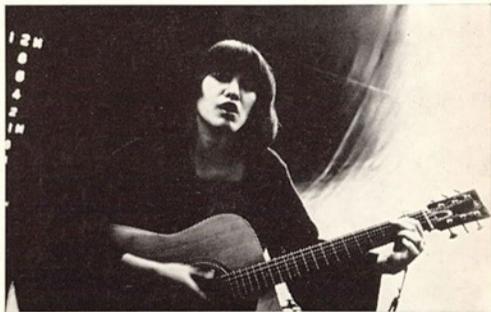
美術奨学会賞 青木繁雄 昼休み (写真)



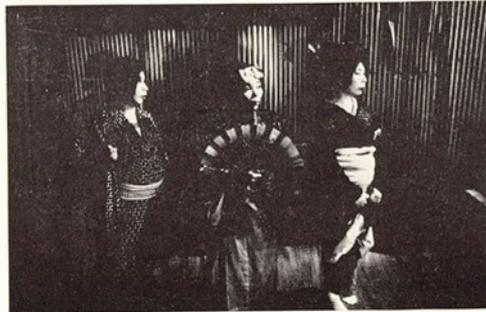
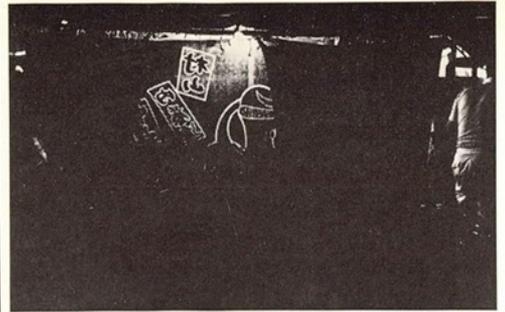
美術奨学会賞 重田佳和 島の夏 (写真)



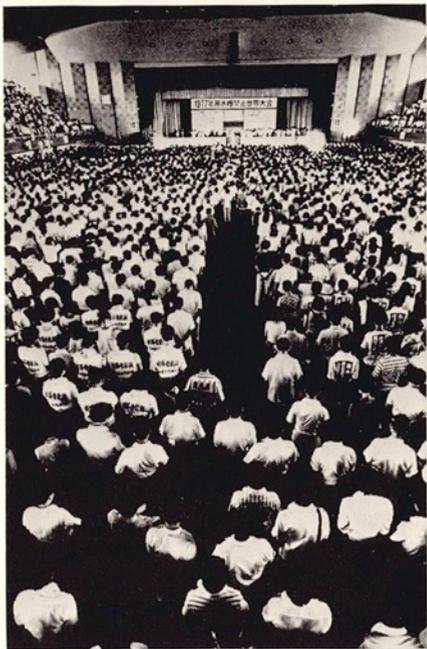
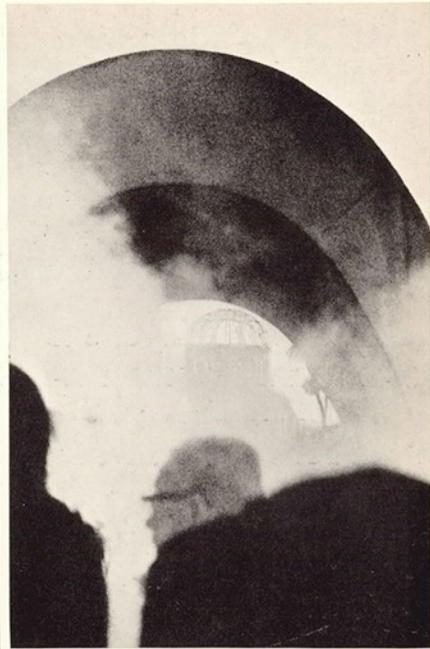
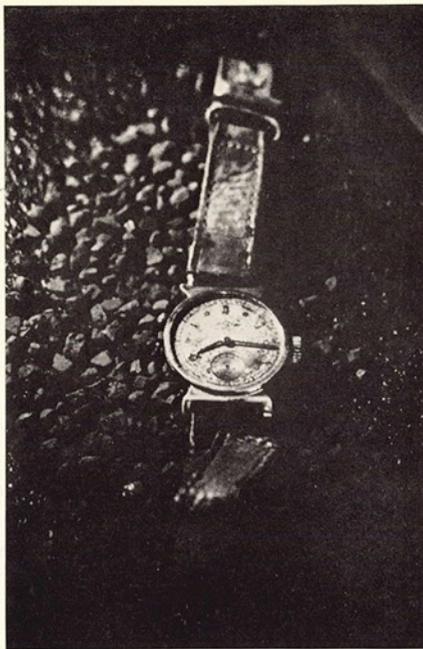
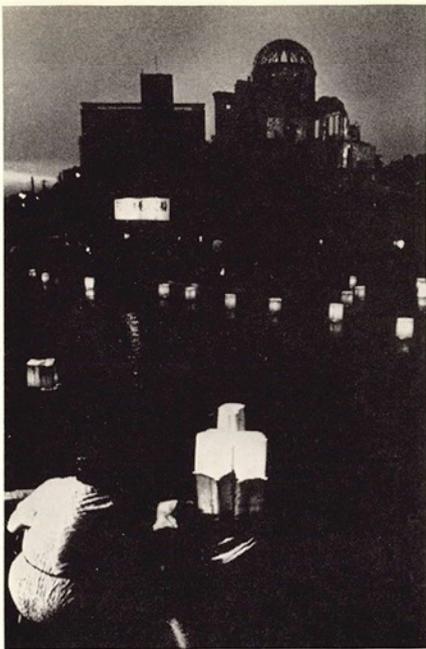
美術奨学会賞 笹尾佳夫 田舎芝居 (写真)



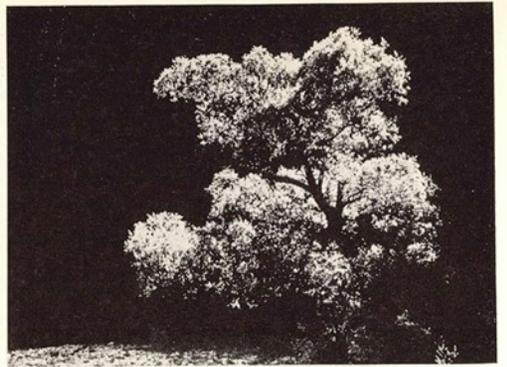
美術奨学会賞 木村杏平 HALLO!! MUSIC (写真)



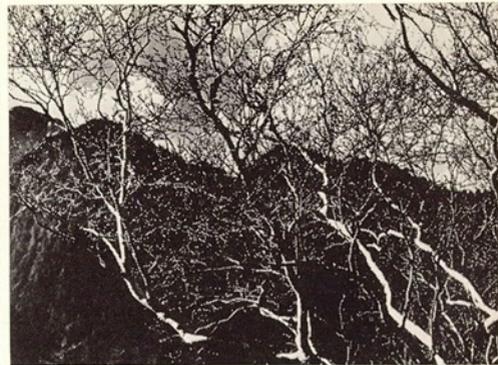
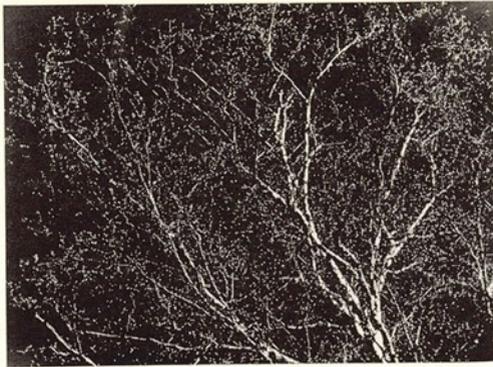
美術奨学会賞 市原欣一 村まつり (写真)



美術奨学会賞 青木 司 傷は癒えない(1977年8月6日ヒロシマ) (写真)



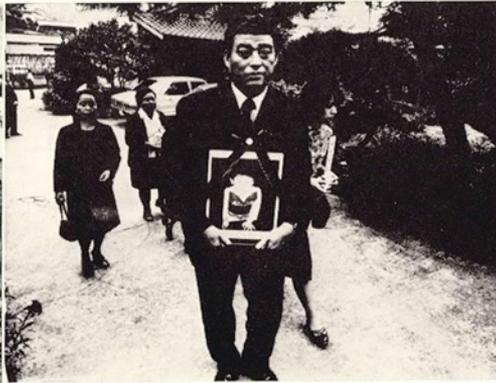
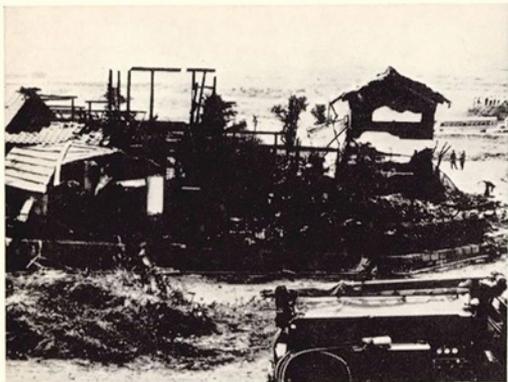
美術奨学会賞 菊地喜保 愛情の絆 (写真)



美術奨学会賞 山本潤一郎 穂高の早春 (写真)



美術奨学会賞 圓木健市 ひょう吹き (写真)



美術奨学会賞 武田 聡 ドキュメント(横浜米軍機墜落事故) (写真)

コンクール部門出品目録

大賞

井上 麦 黒の女一'77 (彫刻)

準大賞

水谷 愛子 髪 (日本画)

伊奈翠陽 近代詩文 (書)

(三好達治『大阿蘇』より)

特選

曾我朝彦 磔刑 (版画)

金子安規 705° C (立体造形)

堀内克子 眩夜 (工芸)

三嶋真人 波 (工芸)

村上紫茜 全祖望詩 (書)

丹羽蒼処 元好問詩 (書)

持田高克 新弟子 (写真)

美術奨学会賞

植田曠躬 宙77-23 (洋画)

白井恵之輔 仮定 '77-7 (洋画)

谷川義美 Mのトルソ (彫刻)

厚地正信 Six Obelisk (立体造形)

桂川幸助 NATURAL I (工芸)

佐藤靖房 断層 (工芸)

渡部はつ子 暮情 (工芸)

近藤詠子 春のみち (工芸)

乾 定夫 群想 (工芸)

須貝越葉 寒山詩 (書)

小林小笛 深山辺の里 (書)

竹内鳳仙 窓 (書)

小川如泉 良寛詩 (書)

久保田昭子 牧水の歌 (書)

重田佳和 島の夏 (写真)

青木 司 傷は癒えない (写真)

(1977年8月6日ヒロシマ)

山本潤一郎 穂高の早春 (写真)

木村杏平 HALLO!! MUSIC (写真)

市原欣一 村まつり (写真)

圓木健市 ひょう吹き (写真)

笹尾佳夫 田舎芝居 (写真)

菊地喜保 愛情の絆 (写真)

青木繁雄 昼休み (写真)

武田 聡 ドキュメント (写真)

横浜米軍機墜落事故

県議会議長賞

鍋島正世 Peach tail Weaver (洋画)

入 選

日本画

森 田 鶴 苑
飯野 静江 水 禽
木下 旭 聖地悠久
長澤 昭朗 矢
佐々木 史江 禰祈(いのり)
田部井 月四 不思議なカガミ
松浦 喜美枝 人(ひと)
小島 敬介 秋 桜
〃 はげいとう
山本 隆 先史の詩習作・II
香野 ルミ子 庭
大島 司郎 交叉「銅鏡」
三浦 雅彦 枯
井出 泰彦 十一月
松倉 茂比古 移り行く時
浅見 信夫 晨
山中 雪人 ボロ・ブドールタ景
川井 勝美 白 凜
塩川 道高 切れた糸
北里 ゆふ 月の影
前本 利彦 夜の気配
古賀 文子 女人群像
小松崎 千砂子 風の刻
河野 秀子 生界の一隅
市橋 豊美 寂視一豚
伊藤 彰耳 證 果
加藤 敏夫 ONNA—2
山本 直彰 街上A
〃 街上B
宮下 富佐子 風の吹く時

山本 ヨリコ コマピコル国の王様
桜庭 春來 作品 No.5
〃 作品 No.7
野崎 丑之介 弥次馬

洋 画

田淵 俊人 夜の森からみあう樹(R)
愛 恭輔 埋立地
渡辺 洋 椅子 V
藤瀬 恭子 ルミナ2
長沢 康彦 閉された海I
田岸 秋男 風景 '77—①
出口 佳子 憩う III
入江 元夫 廊
奥田 紘 同罪化する夜のガード
上田 郁子 生
金子 一治 カーニバル
九 多持 無 題
今 公男 刻壁(風化)II
深田 豊正 Wind 77—6
男谷 省告 CONQUISTADOR
露木 順三 MODERNTIMES, I
高橋 和夫 子供と遊園地 No.1
大場 博 ムスタール通り界限
古沢 進 漁村風景
香川 猛 ランドスケープ(茶)
多田 実 嫁取りの譜
佐々木ようこ うたげ
田部井 要 榻いた日B
〃 榻いた日C
伊藤 幸照 奉 B
永島 康功 女と海シリーズより
戸谷 博行 星降る夜に動き出す
若退若出I

植田 曠躬 宙 77—21
富樫 京子 窓から
十時 恵 発酵作用—四つの肖像
南田 昌康 私はクィーン
本田 貴子 妄 執
中村 幸男 荒れた風景
村田 勇三 「79218」
大村 正一 風景—77—3
倉持 千佳子 風景・夜・I
宮田 翁輔 ポスターと人形と
平野 剛敏 Los ToRos
平井 等 女三人
今口 賢一 手を拡ぐ人
佐藤 元昭 十字架のパバーナ
入江 幸子 漠 2
寿松木 忠勝 果樹園の死II
石井 武 旅
星 兼雄 壁の中の女
石川 俊一 月夜 II
作山 隆一 離宮の賦
松野 俊雄 北の岬
中野 房次 黒の刻I
岸 宏士 北フランスの海辺
加藤 恭夫 北国の魚夫
佐藤 武 界一渴仰
谷川 義美 坑夫の死
鍋島 正世 Moon tail weaver
尾竹 由己 R—展開 No.1
村田 玲子 藪枯らし
月岡 和子 視線 2
西村 充 脱 出
菅野 昌實 面碧果
〃 賜命扉 (1)
田中 善隆 かいまみる

白井恵之輔 仮定 '77-8
 江野永青 alone—II
 梅田東巳 黄色い時計台
 内柴静子 作品 '78-A
 木川田光弘 沈黙
 鈴木裕一郎 ひと
 中川龍生 Space [I]
 勝俣正次 冬の朝
 相原光雄 PARTICIPATION
 伊藤晴実 HORIZON II
 千葉彰一 街
 佐藤哲也 若者達 No.1
 阿部照夫 町 II
 梅原健二 赤いネクタイと青いネッカ
 チーフ
 鶴田昭夫 うたかた
 高波壮太郎 サクラ
 上原収二 金と銀の本質
 知久茂雄 収穫の村 I
 あさい敏恵 移行 I
 馬継紀子 女 I
 武田ゆり子 VIRTUAL EXISTENCE
 I
 長谷川桂三 朝色の郊外
 大北利根子 HANGING IV
 石塚健二 家族 ③

水彩画

ALVIN HIPOKI SNOW PATCH
 MORINOUE
 瀬尾力 ダルヴィ
 まつばらけん 唱 (I)

版画

高橋功 静弱 B
 中沢晴男 渦
 山田隆志 Reproduction Society
 竹内正幸 a doyen
 〃 Position II
 〃 「ALBUM」77-10-12
 齊藤進 少女像
 須山孝 頭脳光景の娘
 茂木行雄 閉じ込められた風景
 青木道夫 ボール①
 田岸秋男 美の入口
 別所道子 A・M 5-1
 ソーダミノル 界 1
 森本修一 界 3
 〃 ヨコスカ ドブ板シリーズ
 No.12
 杉山一夫 SPACE BOX 77-OCT-1
 蓮池純治 黙
 長沢康子 作品 色一形(C)
 越水茂 子供の夢
 亀鶴太郎 奈落 2
 倉橋元治 奈落 5
 〃 街に出ようよ
 広瀬善博 ポーズ 77
 中嶋國博 I Saw her standing there
 横山政明

五島三子男 Vanishig scenery h
 〃 三浦三崎の夏
 〃 Vanishig scenery j
 〃 三浦三崎の夏
 井口則夫 human II
 黒田茂樹 By By Bicycle No.3
 〃 By By Bicycle No.7
 小林守 平面 II
 鈴木ヨシオ 窓辺の光景
 佐久間恭子 つめたい落日 I
 井上郭子 トナカイ 太陽
 〃 トナカイ 宇宙
 笹村一夫 卓上化されるもの
 阿部由起子 DANSE MACABRE III
 水津桂 Egg Egg Egg
 〃 Over the Knob
 工藤忠孝 町 1
 寺田有恒 「海」I
 洩崎昇 に
 クラタヒロマサ UNTITLE No.104
 〃 UNTITLE No.105
 加藤正博 無題 No.1
 〃 無題 No.2
 高橋幸光 作品 '77-12
 天野陽平 WHERE TO
 菊地昭 my-work-Apipe
 〃 work-scope I
 〃 ドチラ 2
 原田映爾 彷徨天使
 奥井富士夫 Nose '77
 細谷正男 Lips '77
 〃 「No.9218」
 村田勇三

彫刻

日原公大 大地の詩
森田やすこ ある日
大内 稔 石工
柏原花子 女
増田春雄 WAFU/LIFT
谷川義美 母の像
坂井彰夫 わい
ゝ える
坂井匠子 夏
小泉勝雄 内面の動き(死者の舟)
加藤かずこ 女
倉賀野 広 南風
杉 英行 KYOKO
松本 工 トライアングル B & RS
井上 麦 ウー
ゝ 白の女'77
池田清史 KAGU'77
酒井道久 小雨・となりの話声
李 赫 現場監督
山本豊彦 夜
川島美知子 帰還
麻田昭作 なる
ゝ 夏の終りに II

立体造形

福田宏行 双隆
原田和男 Scale Down
神山 明 a pair of triangle
松倉藍輔 内部資料 I
勝又豊子 逃避 I
厚地正信 Three Obelisk
田端 徹 面の構造ソフト

三藤茂夫 INTERVAL II
伊藤康彦 球体の持続 (2)
斉藤光弘 CUBE No.2
坂田一之 TEMPER CDLOR
鈴木 明 鉄,真鍮,ステンレス
THIS IS THE
PHOTOGRAM
久松共子 TALK
藤田 仁 ジョイント 1977.12

工芸

今林三恵子 道化師
小林信子 染類「遥」
吉田きみ子 祈り
森田洋子 花器連作 山路の記憶
石井美江子 藍染地,水草紋着物
ゝ 藍染地四角鳥紋着物「平和」
中島光雄 花器 早春の調べ
小林望子 流水
本田敏晴 パネル誕生
小磯弥栄子 春が
熊谷勇美子 斜 part II
大森早苗 舞上
森 信子 いぶき
亀井知子 木の夢
山土井篤子 バリエーション
寺沢康子 窓
条塚弘美 宙
高橋あつ子 コントラスト
横山雅美 碧血譜
中村裕子 窠変大皿(七宝)
古川麻里子 DREAM
安藤弘子 タイムマシン

佐藤田保 相模野
稲垣 稔 シンピジューム
萩原千子 光の行進曲
青木英子 遠い旋律
佐藤靖房 灰釉壺
後藤寿美恵 メッカエの道
桑原平治 壺(伊羅保釉)
木下もと子 組紐文黄地紬帯
ゝ 輪つなぎ文藍染布
小山岑一 油滴壺
ゝ 油滴鉢
塩川 徹 壺
ゝ 花器
佐藤敏枝 赤い虫(I)
萩原昭彦 柿釉しのぎ手壺
田野佳代子 紵
久野正雄 渦巻紋大皿
ゝ 渦巻紋小箱
菅原恵子 菓子器
湯村京子 ひとりぼっちの音楽会
佐野陽三 香合
宮本正義 リズムA
ゝ リズムC
桑名美津子 正藍染絵紵 水鳥
ゝ 正藍染紵木綿 残雪
岡 進 壺
長澤義春 練込壺
坂間 昭 逝き犬
渡辺恵美子 遙かなる刻(EGYPT)
桜井光美 扇
金浜勝利 鉄釉楕目文花立
黒沢伸子 老竹
ゝ コスモス
伊奈尚子 樹影(きのすがた)

石井礼子 刺繡額「街」
 原田光子 対
 倉田俊一 樺造平卓
 近 弘 風炉先
 木村久美子 青の静寂
 小山君代 海辺にて
 門田ヒロ子 意地
 税所徳子 浴後
 大平美智子 コンポジション
 五味彦一 貝紋伊羅保深鉢
 灰釉深鉢
 村主武 虚の空間と実の空間
 山本健二 三彩印花紋焼メ鉢
 泰美智子 都会の休日
 小林公子 いつくしみ
 狩野炎立 黒への道標
 鈴木亘 練上げ壺
 菊池幸子 タピストリー「胡蝶」
 奥野花代子 タピストリー「惑星」
 若月道子 紬織着物深山
 太田光子 花水木文様四つ引出し
 村田尚武 線文花器
 岩沢健吾 作品 No.4
 関田栄也 不動
 木内隆男 構成 No.1
 河村政一 渦巻紋壺
 石原昭美 広口壺
 後藤淳一 顔
 大津絢子 鉄絵青磁壺
 鉄絵青磁大皿
 高橋洸江 方形より
 中曾根馨 流灰釉壺
 菅沼三千子 拭漆胴張鉢
 長岡正巳 布目草文花器

伊藤修 かたつむり長方盆
 宮道ユキ子 連弁紋盛器
 赤井恵美子 午後の陽
 茂登山泰晴 線文象嵌鉢
 川端雅子 正藍染手織着物
 高橋美津子 空間を求めて
 樋村允彦 '78 態「誕生」
 榎本未生 蟻
 石川美津子 経緯緋吉野織麻布
 平岩共代 ジュウリー・ブローチ兼
 ペンダント
 高城由美子 組織図シリーズ1
 ひらおりの布
 組織図シリーズ2
 あやおりの布
 鐸木能子 寂
 北村訓子 揺
 揺
 中野佳子 スペースディバイダー
 <樹木>
 東日出夫 壁面に表出した張力
 衛藤稔 日蔭
 森恵子 薊唐草文大皿
 書
 原田義鳳 杜甫詩
 関美代 呉偉業の詩
 稲垣臯人 寒山詩
 山田秋風 白楽天の詩
 八島幽月 杜甫詩
 三浦美園 呉昌碩詩
 山本花聲 王維詩
 高橋蒲川 李白詩
 須山光華 寒山詩

三津木芝影 李白詩
 川越秋聲 杜甫詩
 五味彩翠 王漁洋詩
 細野果村 晚秋農家(陸游詩)
 砂川旬村 黄山谷詩
 真田華村 黄山谷詩
 加藤翠郷 江上吟
 入澤八祥 早春遊望に和す
 牧野ふみ江 和歌一首
 小林春葉 蘇氏別業朗詠詩
 小林光葉 観山水図杜甫詩
 泉弘子 関戸本古今集
 野田翠蘭 枕草子抄
 竹下幽光 送韋評事
 嶋田匡峰 唐詩・涼州詩
 夏梅陽子 三好達治「山なみとほに」
 遠藤千明 西條八十詩(旅)
 座間たみ子 島崎藤村「かもめ」
 落合玉男 七言絶句
 金子如龍 李敬方詩
 川瀬魚石 近代詩文書
 渡辺美代子 近代詩文
 大村雅子 近代詩文
 山崎可祝 詩文
 梅沢龍川 夕照・丘々は胸に
 石井富代 子もり唄
 小泉恵俊 砂の砦
 八木香葉 白秋詩
 相馬彫花 菜の花畑で
 萩村みちよ 野薊の娘
 小山誠一 近代詩文書
 富岡登 小雅「黍苗」
 石坂雅彦 周南樛木
 山下静雨 寒朝のうた

登坂天夢	歌偉詩路傍老人	小川紫流	白楽天詩	長島正恵	奥の細道
松橋勝子	古今和歌集秋下七首	杉山紫苑	明人詩	榎原君子	小島切抄
枅岡梅鳩	古今和歌集	谷口春泉	李白詩	春山右濤	杜甫詩佳人
日野珠光	西行之歌	近藤春柳	鄂州寓巖潤宅	齋藤右波	針切抄
阿部啓圃	百人一首	横関真貴	岑參詩	青蔭清節	鱗
高瀬光枝	柿本人麿	鈴木蓉処	蘇軾の詩	大矢鳳城	自詠詩「日月星辰之歌」No.13
川口流坡	顧貞觀詩	舟山随処	宗詩		
木下柳塘	王安石詩	田澤涼	許渾詩		
武田清美	王維詩	加藤州処	於安城答靈運		
大藤史城	李商隱詩揺落	原茜処	黄遵憲詩春夜懷蕭蘭谷		
篠田朋泉	陸游詩	生嶋静月	王安石詩		
石川蒼丘	よの中を	森草坡	蘇東坡詩		
榎本房州	王漁洋詩	尾崎静鳳	魏徵述懷		
平田十臥	柳宗元詩	佐藤袖処	高啓詩聞蛙		
鈴木明如	良寛詩	浜本茂	山村暮鳥の詩		
甘粕如香	良寛詩	上遠野富久子	白楽天の詩		
林如巖	良寛詩	篠田茂山	高青邱の詩		
高崎巖	蘇軾の詩	筒井丹村	王維持		
池田撫草	高青邱詩	栗橋東崖	蘇軾詩		
矢島撫周	袁宏道の詩	鈴木可奈	寸松庵色紙臨書		
吉田春翠	李白の詩	鈴木淑子	電		
瀬戸翠谿	良寛詩	宮川フジ	伊藤左千夫の歌		
西田東穂	陳子昂五律二首	石井蘭如	良寛詩		
横田南畦	李頎詩	大内千枝	万葉和歌三首		
豊田弥生	牧水の歌	秋山松香	短歌		
菊地寿子	高野功第一種	伊藤翠香	短歌		
会津雄子	中務集	石井澄水	劉長郷の詩		
富田象濤	杜審言詩	高井昭子	春之歌		
青木不攪	王灣詩	小山奎	「盛」		
星光陽	夏目漱石詩	飯田文夫	王維詩		
田口孝一	載叔倫詩	堀柳竹	蛙よ		
柴田房枝	唐詩	渡辺泉竹	春宵一刻值千金		
吉沢菁菱	李白詩	渡辺彰苑	杜甫の詩		
阿部跳龍	唐詩	井上きみゑ	木の花		

写真

小川正治	牛
上平昇	バッシー海峽夕景
桜井開次	旅役者
小室宏	野田の若衆
千屋栄市	秋色
岡島守弘	The Mildew
清水啓一	ヌード
稲毛讓	祭り
木庭紀光	雲海
山口勝喜	修行を終えて
相沢正一	屋外演芸場
島津多鶴	門出
加藤惣平	菊人形張交
安藤俊紀	みち潮
中尾務	紫陽花
今村重明	湖面
峯岸誠一	佃ツ子
吉田健吉郎	舞台裏
片岡順一	騒音の街
加藤義雄	クラの印象
原田孝行	岩のある景色
田辺昇一	相模人形芝居
浅見清	風景
香山修	あばれ御輿（足柄上郡中井町）
鈴木雅裕	基地のパーティー（厚木）

鈴木行一	郷愁	川端積造	里の朝
金丸敏雄	早稲田小劇場 白石加代子	斉藤利雄	古式野馬追い祭
三井文一	夜のハイウエー	小川実	影がみえる風影
熊坂弘	朝まで走ろう	直井三男	晩秋
星子省造	当世俵屋さん	富田良一	レシーブ
高島義一	ポエジー	白居一雄	潮騒の町
海野道男	海	佐藤義和	遊戯
藤倉忠明	供養	高橋幸子	帰り道
望月従道	秋日	杉浦幸雄	旅愁
和田光弘	若布日和	増田智生	厳冬のオオハクチョウ
〃	海辺の夕暮れ	梅田修	山姥(鎌倉宮)
石塚力	アンダルシアの娘 (スペイン)	梅田章	槍
小寺貞治	水辺二題	木村久子	風
牛田恵美子	積状雲三種	石川清	夏の夢
竹内和弘	暮色	東谷今朝義	里の祭
内山涉	祭(真鶴の貴船祭り)	中川みさご	まつりの日
松原勇吉	クィーンエリザベス 2世号	淀川潤	風景
目見田正	てんぐさま模様	谷内庄司	憧憬
矢野和夫	地藏の群れ	士屋道廣	不安
山崎廣	生活の詩	柏木利夫	野犬
千葉久男	神々への訪れ	成田光芳	家族の一員
松浦好雄	トルコの街	竹村利昭	野辺の女
竹内藤三	反映 B		
牧野秀雄	Queen Elizabeth—2		
萩谷芳美	光影		
藤田仁	1977.9.20 PM6:00		
越水武嗣	花と蝶		
〃	赤とんぼ		
越水亀太郎	雨後の公園		
榎田守	波三態		
佐藤力三郎	雲上を行く		
久保田正敏	飛翔		
尾作武	祭にかける青春		

コンクール審査講評



日本画

鑑別を終わって4人の審査員が期せずして発した感想が、応募作品の水準がなかなか高く上った、ことだった。それだけに鑑別を終わった4人は、去年に比べ相当以上の苦労を感じたのである。審査員を苦しますことはよいことである。それは出品者の勝ちである。およそ、コンクールはこうあって欲しいものだ。

水準が上がリ、鑑別に苦労したというのは、ひっきょう応募作品の質的向上を意味する。

同じ顔触れの4人が毎年出品作品と対決して、ウンと思わず唸らされる度数が多くなればなるほど、落とすのが残念になり、その結果疲れることになる。ことしのようにレベルアップされると、82点の応募作を見終って一同ヘトヘトになった。なりながら4人で顔見合わせて喜びあい、実に爽快な気分になったものである。

まず昨年より応募者も、点数も増加したのが嬉しかった。しかも大きさの制限が前年より緩くなったから、大作がふえ、画面に伸びやかな自由さが溢れていた。

実力のある常連出品者が、結局残ったけれど、それも例年になく力作揃いで、中には抽象作品も現れてわれわれを喜ばせた。県美展の自由な実力試合の場を出現させることができたこと、一応満足している。その結果、賞候補に抜擢した水谷愛子氏の「髪」という裸婦群像の清潔な表現や長沢昭朗氏の「失」、河野秀子氏の「生界の一隅」が語りかける表現力は特に優れていたと信じる。

大森運夫 加藤東一 月岡栄貴 竹田道太郎



洋画

第13回展は招待展と合同でなく、公募だけの展示なので、それだけ壁面を広くとれ、入選点数を多くすることができたが、画面の大きさ制限が昨年（100号以内）より大きくなったために、やはり昨年同様狭き門となった。芸術祭の一環として県美展は一人でも多くの参加をのぞんでいるが、同時に質的向上を期待して新人の進出と発展を希望している。こうした観点の上に新人の発見と厳正な作品批判の中で審査が行われた。

審査団の感想、批評を二三拾ってみよう。「この作者は県美展を見たことがあるだろうか」また「絵画というものがわかって描いているのだろうか」また「まだ習作と制作の区別がわからないようだ」といった批評の中にはいろいろな意味が含まれているが、いつも入選している人達との落差がいかにも大きいのである。審査にもれた作品には、花びんに花、果物といった絵、風景の写生、人物肖像、日常生活、職場の情景といった絵が多く、それなりに美しさを感じたり、愛情をもって描いたことはわかるが、いかにもたんに習作に終わっている絵。丹念に描きこんであるが小さな絵を一点しか出品していない人。勿論一点の出品でも珠玉の作品ならば入選した。画面が大きければよい作品ということではない。作者がどんなことを感じ、どんなことを絵で言いたいのか、それについて考えを深めたいならば、自然に絵の大きさも要求され、構成の緊密さも追求され、表現として迫力のある作品になるだろう。抽象的な絵についても同じことが云える。知識技術だけでは絵にならない。絵とは何か、それに応えて、それぞれ個性的な表現の動機や主張のちがいがあがるが、入賞の候補としてあげられた人々は、白井恵之輔「仮定 '77-7」、谷川義美「坑夫の死」、植田曠躬「宙77-23」、田部井要「稠いた日B」、鍋島正世「peach tail weaver」の諸氏である。内容的に造形的にも勝れた作品として評価されたのであった。 小関利雄



版 画

今回の版画部門の応募点数は昨年よりも多く、今までの最高点数ではないかと思えます。

点数が多いだけでなく、作品の質が、大変向上しているのではないかと、審査員一同喜んで審査しました。

版種別に見ますと、銅版画の作品に優れたのが見えなかったこと、やはり一番むずかしい技法なので、技法に負けているが目立ちました。

リトグラフ、シルクスクリーンとも技術は優れています。もうこれだけの技術があればどんな表現も出来そうです。

木版画に大変力作がありました。この版種はややもすると、民芸調になる作品が今までは多かったようですが、今回はありませんでした。版画は、技法の面白さ、むずかしさに振り回されて、表現するイメージが弱くなり勝ちです。特に若い作家達に、お願いしたいことは、もっと、表現したいイメージを明確に、出してもらいたい、ということが審査員一同の意見でした。

齋藤寿一



彫刻

コンクール部門を招待展から分離したことが原因かどうかは分からないが、今年は石彫、木彫など重量のかさむ作品、等身大の大作が県下広くから出品されて盛んな搬入風景となった。作品の質が向上して入落のボーダーライン水準が高くなり厳選となった。

作品の傾向をみると二つの流れを形作っていることが分る。一つは常連を含めた具象作家であり、一つは新しい彫刻のあり方を模索する若い人達である。

1か年の労力と多額の運搬費をかけての県美展へむけての発表意欲を思えば、県は十分な発表の場を提供せねばならないと思う。

選評を言うと少しつよい言いかたになるが、具象作品の多くが力量不足であり古さが目に付く。古典彫刻を再現するのではなく近代を創るのであるから、もっと大胆に「量」の取捨を行い、無駄なものをとり去って表現を強めることが必要ではないかと思う。

もう一つは自己の発想から始って独自の仕事を進めている人達である。井上麦「黒の女 '77」、日原公大「大地の詩」、小泉勝雄「内面の動き」、川島美智子「帰還」、いずれも実材による力作で問題を提起した作品である。見る彫刻から思考を求める彫刻へとその分野を展いたこれらの作家の将来を期待したい。

井上信道



立体造形

今年は昨年にくらべて応募点数、人数とも5割ぐらゐの増加であった。展示スペースの関係でかなりの厳選になってしまった。基本的に1人の作家を除いて2点出品の作品は1点にしぼらざるを得なかったのは誠に残念であった。

立体造形部門は、絵画でも彫刻でも版画でも工芸、写真でもない作品を受け入れようという考えから設立されたが、今でもその趣旨は生かされている。神奈川県美術展のこの部門の応募作品は全国的に見ても相当レベルの高いもので充分見ごたえのする作品が多かった。中でも数人の若手作家の作品は、十分に賞の対象になり得るものであったが優劣つけ難くかなりの時間を要したものである。

じっくり眺めていると着実に自己の領域を掘り下げ、拡張している作家と一発勝負で出品している作家とが明りようになってくる。芸術は精神の実験の連続ではあるけれど、場あたりの制作するよりも、じっくり自己を押し出せる作家が望ましい。そのような意味で当然の事ながら作品のオリジナリティにポイントを置いて審査をしたつもりである。

伊藤隆康



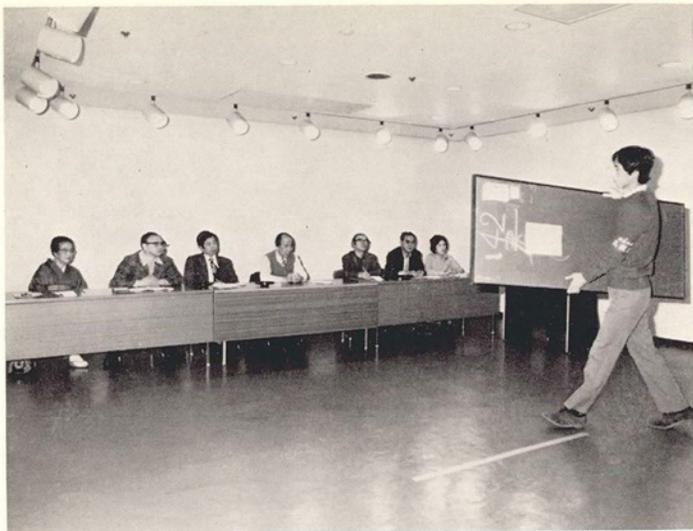
工 芸

本年度における第13回神奈川県美術展の特色は、何と云っても公募展と招待展とが会期を別にして開催されることにある。そのためか、今回の公募展で審査に当たった印象としては、工芸の各分野にわたり殊に傑出した作品が見当らず、いささか気付けした感も無くはなかった。これは、従来ならば公募の場でもっとも長期にその技術や感覚を磨きながら大賞を競い合うべき優秀な新人たちの多くが、これまでの賞歴によっていとも易く招待展の方へ抜擢されて行ってしまったからでもあろう。その意味では、今後、招待展への作家をより厳しく選考しない限り、結果的には公募展の方の魅力が不向するのは当然であると同時に、海外遊学を条件として折角大賞を設けた意味も、また効果も、無くなってしまふことになるのである。

だが、この広大な神奈川県の中には、この公募展に出品出来る資格を持ちながら、なおそれに踏切らずにいる優れた技術や才能が隠在していることは確かであり、それらの誘致こそ、これからこの公募展が発展する上にそれこそ真剣に考慮しなければならない問題であると思われる。

今回の入選作品の中では、大賞候補として選ばれた堀内克子の「眩夜」（染色）と、これと最後まで候補を競った三嶋真人の「波」三部作（漆芸）が素晴らしかったほか、佐藤靖房「断層」（陶芸）、近藤詠子「春のみち」（七宝）、桂川幸助「NATURAL I」（染織）、渡部はつ子「暮情」（人形）、乾定夫「群想」（鎌倉彫）、宮本正義「リズムC」（陶芸）、菊地幸子「胡蝶」（織）、北村訓子「揺」（染織）が優れていた。

吉田耕三



書

県美展書道部門は、その当初から回を重ねるごとに着々とその内容の充実ぶりを見せて来たのであるが、本年もまた大きな飛躍を見せたことはまことに喜ばしい限りである。

本展の書道部門が全国的に見てもハイレベルであることは今や周知の事実であるが、これは出品者各位の研鑽のたまものであることは申すまでもない。今回特に感じたことは、落選作の大部分が入選作とみなされても少しもひげ目を感じさせなかったということである。言ってみれば、入選作と選外の作品との間にさほどの懸隔がないということなのである。さらに言えば、応募者の全体的なレベルが向上したということであり、その中で選び抜かれた入選者諸氏は大いに本展での入選に誇りをもってほしいと思う。そして、今後自信をもって一層の精進を積みたいものである。

準大賞の伊奈翠陽氏は、近代詩文を練りぬかれた筆意をもって表現し極めて自然であった。それに澄明感のただよっていたことと造型のたしさが何よりもよかったと思う。他の入賞者諸氏も、それぞれに新鮮さを見せハツラツとし、実に爽快であった。

最後に一言したいことは、今日書道隆盛期といわれている時期であるが、真の意味での書道の隆盛のためには書道人一人一人の真摯な研鑽精進が必要である。そして、書道関係者だけでなく、あらゆる層の人々の納得の行く書を生みだすための努力こそ刻下の急務であることを、書部門参加者全員に向かって叫びたいと思う。そして、神奈川の書道の益々の向上を望む次第である。 殿村藍田



写真

今回のトピックは、特選に選ばれた「新弟子」の持田高克氏です。持田氏は、今迄にどのコンクールにも応募したことがない新人中の新人で、県美展にも初応募で見事、写真部の最高賞の栄冠を射止めたことです。賞を意識しない純真さの勝利かもしれません。奨学会賞の木村杏平氏の「HALLO!! MUSIC」は、さすがベテラン作家らしい味のある作品で、アメリカナイズの世界を描き、深い内容を表現しました。山本潤一郎氏の「穂高の早春」、菊地喜保氏「愛情の絆」、青木繁雄氏「昼休み」は、いずれも神奈川県の中堅作家として定評のある方々です。いずれも危げないテクニックの持主で、自分の世界を掘り下げることに精進している人たちです。

これに対して、新人の重田佳和氏の「島の夏」は、南の島の風俗を新鮮な目で見ています。自分が面白いと思ったものを素直に写したよさだと思います。青木司氏の「傷は癒えない」のノーモアヒロシマズは、反戦写真の正統派作品として、県美展に一度はとりあげたいものでした。武田聡氏の「横浜米軍機墜落事故」は、横浜に於ける生々しいニュースのドキュメントで、構成も巧みで迫力を感じました。市原欣一氏の「村まつり」は、数多い祭りものの中で、傑出したテクニックの優れた作品として、当然の受賞でした。笹尾佳夫氏の「田舎芝居」は、ユーモラスな素材をほほえましく見せています。圓木健市氏の「ひょう吹き」は、滑稽なひょっこ踊りを、カラー効果でうまく見せています。この外、まだまだ賞を出したい作品が数多くあったことを特筆しておきます。

奥村泰宏

招待部門

招待部門作品目録

日本画

羽根万象 女と猫
 山口玲瀧 春光
 水戸童 猫
 加藤東一 スケッチ
 渡辺幸雄 花
 石川響 太陽と鳳凰花
 岡本彌壽子 女
 月岡栄貴 雷神
 小島昇 作品
 蓮尾辰雄 花
 入江正己 浄土変
 工藤甲人 啓蟄
 大森運夫 おばこの村
 大山鎮 漁婦四体図
 中野嘉之 来る春
 結城天童 花玉図
 上田臥牛 灯台
 遠藤桑珠 湿原
 能島和明 鴉
 田所浩 椿
 榎本健一 森
 榎本豊子 鶴見川

洋画

中谷龍一 トレドの坂道
 木下寿々子 印度婦人
 木下米 作品
 小泉元生 カーニュ風景
 源川雪 マラッカの裏通り
 吉崎道治 風景
 松本久男 伊豆天城風景

寺井重三 レッソンの合い間
 藤波成喜 落日
 泉文子 ばら
 谷合浩典 若い人
 国領経郎 作品
 桜庭彦治 六甲鉢伏山深緑
 新井康須雄 街
 石田精吾 崖
 阿部和美 卓上の静物
 井口啓 母子像
 梅林良子 作品80
 樋口善一 安曇野
 山田茂人 佇
 飯島義也 麦わら帽子のある静物
 森本博子 静物
 杉田義雄 雪国の風景
 桜川洋子 街
 佐々木文綱 風景
 進藤清 海(江の島)
 添田定夫 御坂の里
 佐々木雅人 瑤
 鈴木雪子 月明りの卓上
 井上正子 とり
 増田常吉 古都
 川島実 港
 島田四郎 風景
 川口栄 風景
 田中君江 冬
 佐藤美子 風景
 戸津文雄 ハケ岳残雪
 岡野正樹 暁
 安喰虎雄 静物
 岩田栄之助 小豆島風景
 遠藤典太 柏楨

越智雄二 紅葉の山
 横尾丈夫 石佛
 田代利夫 MY-No.1
 田辺謙輔 春近き聖堂
 小清水金司 風景
 相吉沢久 小島の道
 山崎秀夫 ドン・キホーテ
 高瀬捷三 磯の幻想
 山崎隆夫 白の風景
 赤岩賢三 奏でる
 養田つや子 ベコニヤ
 石井佐一 驚ろいた人形
 江見絹子 作品
 岡村芳男 ボンテベッキヨの集い
 志村計介 風景
 江添栄一郎 古代オリエントの回想
 (ダリウスの遺産)
 北岡数彦 風景
 杉浦勝人 静物
 遠藤慶一郎 沈む光体
 相沢正 作品
 阪本文男 バラの座と赤いかざぐるま
 勝呂忠 夢幻の象
 木村一生 気配
 木村良枝 JIVE
 曾根亮 作品
 永井肇 野
 大津忠太郎 旅情
 黒岡俊久 作品78-A
 古川益弘 風景
 栗原喜依子 スペイン風景
 鶴田猛 駅前、人力車
 市川勉 天城の湯の里
 河野日出雄 翔

江川光信 木の間
 神部修一 北の庭シリーズ(四季の音)
 兎月人 勝手にしろ
 浜田嘉代 風景
 荒井茂雄 青い花
 柴田周一 Form 9~B
 田沢茂 民話
 小関利雄 花祭
 柴田善登 地獄谷(立山)
 安保健二 漁村
 小林義範 作品
 瀬島好正 白
 武林敬吉 スペイン風景
 斉藤義重 作品
 油野誠一 地形
 稲木秀臣 グロテスク空間
 細井千鶴子 断章
 田賀亮三 慕情のメカニズム
 広瀬一二 作品
 三橋兄弟治 スペイン風景
 井上俊郎 家路
 森秀男 羽毛たちへの青 78-11
 塚谷恵津子 静物(山帰来の実のある)
 森川ユキエ むかしの唄
 和田松久 座わる女
 寺田春弼 白樺の林道
 佐藤努 夕ありき
 菅野功 北の海(津軽)
 千田高詩 リアルクリケーション
 塚本茂 或るポーズ
 中西新太郎 月のかんざし
 金岩清隆 生
 越後島芳明 風景
 後藤武久 レースの前

善浪迪 海浜初夏風景
 川村直子 Progress of the work
 金沢博 風景 '77
 江波伸 1978-8
 笹英子 海辺の石
 鈴木充朗 風景
 長宗希佳 静かな風景
 高瀬哉冲 群像
 嶋剛 über die Bewußtheit
 (78-1A)
 伊藤愛子 ある時刻
 熊沢淑 在
 島谷晃 my owl
 大道健治 浜辺のヨット
 加藤義雄 柔
 猪瀬踏花 アルビソラの家
 高木敏行 ポコポコ
 オオミタクゾー ム・ダイ
 田口雅己 名作による駄作
 泉谷淑夫 黄昏
 相笠昌義 四季童女図

版画

斎藤清 慈愛(D)
 馬淵聖 三柿
 馬場禱男 ビッグショー
 大内マコト MIRU
 岩見禮花 水の宴
 栃木順子 作品 78-1
 斎藤カオル 眠るかほ
 日下賢二 かすかな地平線
 由木礼 Soul Street

彫刻

高田博厚 Peposer(憩う)
 武次郎 婦人像
 山本正道 冬のアトリエ
 榎山三穀 晩鐘
 伊藤芳雄 仔馬
 長江録弥 空海
 浅井行雄 立像
 圓鏝元規 中学生
 中村宏 裸婦
 安田周三郎 鬚
 松本繁来 習作
 圓鏝勝三 ささやき
 松田喜三郎 弾く
 陶山定人 はたち
 井上信道 女
 西谷富士雄 若い女
 垣内治雄 六月の風
 井上玲子 移行体 No.4
 金子典義 横たわる女
 菅沼五郎 作品
 広瀬和子 シャーラー

立体造形

加藤義郎 鏡のスクリーン
 山井イク夫 LANDSCAPE—1978
 伊藤隆康 モニュメントのための 試作
 スケール 1/10
 高橋勝 旅行者(封印シリーズ)

工 芸

赤地友哉 曲輪造り朱溜金彩盤
 赤堀郁修 孤線の詩
 岡村康子 金線文風呂先屏風
 菅間ゆみい 春
 各務鏡三 クリスタル花瓶
 吉田丈夫 クリスタル硝子花器
 青野武市 クリスタルオブジェ「鳥」
 小林貢 青の華
 大宮希陶志 織部追想
 松浦松夫 セピアの塔
 今井久江 壁面装飾
 慶寺丹長 胴ノ花器
 中田呂尚 広口釜
 山口寿雄 茶の湯釜
 石川充宏 朝・女
 辻雅洋 ドーム
 暮田延美 染額「顔」
 佐藤もとい 染額「花の映像」
 廣井樹美 蒼
 浜田真爽子 袖着尺 市松
 平田徹子 開花
 山岸南子 森の寂寞
 山下了是 ある図形
 市橋とし子 雪はやく消ればえ
 野田芳正 情韻
 前田金彌 文楽思慕
 橋本公恵 紫野
 上原春代 蒼淵
 上村桑子 赤とんぼ
 佐々木ゆき枝 さくろ
 江成房子 母と子
 芝山吉邦 象

鈴木三成 青磁花瓶
 南雲龍 地の記憶
 小嶋章光 文様花瓶
 加藤皇 天風繩草花紋壺
 三浦勇 鳥のあかり
 小田垣要司 黒陶花器
 林良達 遺されたもの
 安田律子 印花文鉢
 村主武 簡素1
 吉田亜火祢 変化する形態
 松井三郎 LIFE Point
 綿貫清 菱紋高坏盛籠
 馬場松堂 作品'78
 大菊昭治 あかね
 竹村佳男 潮紋
 伊志良不説 鎌倉彫菓子器
 江刺栄一 鉢
 小野次雄 乾漉八角喚籠
 竹内佳夫 作品「78」
 尾留川忠 鉢
 永田秋岳 鎌倉彫小菊文引出し
 水野矯夫 輪舞
 佐野登志子 希望
 北條とみ子 スズラン
 國行道子 DEUXIÈME CARRÉ

書

青木香流 ゆきやこんこん
 天野翠琴 和歌
 荒井香竹 近代詩
 飯原青洲 李白宮中行楽詞
 池上鶴洋 唐詩
 鶴飼寒鏡 古朴
 及川初恵 俳句

大島嵩山 蘇東坡詩
 大西芳流 心安
 大道静波 作品
 岡田扇香 若山牧水の歌
 川口芝香 佐々木文綱の歌
 佐々木如空 良寛詩
 志賀正枝 和歌
 重田翠村 黄山谷詩
 島津碧嵩 蘇軾詩
 鈴木小江 阿伝
 鈴木龍雲 元稹詩
 仙場右羊 白雲抱幽石
 竹田悦堂 人麿の歌
 溪口幽城 伊東静雄詩「秋の海」より
 殿村藍田 唐詩
 中平南谿 觴弦〔陶淵明の句〕
 中村松堂 四望風光多野趣桃花亦白占
 陽春
 中山鶴雲 七言二句
 西川万象 李白詩
 萩原櫛風 「袁宏道」の詩
 西村西洲 寿如金石
 比田井南谷 朽
 船橋春浦 古歌
 松本利一 近代詩文書
 山口清苑 唐詩
 吉田蘭處 皴維詩
 伊東撫劍 王安石詩
 四宮撫琴 白居易詩

写 真

青 木 誠三郎	寂（苔寺）
伊 藤 藤十郎	台風十九号の油壺 黒四ダムと観光客
内 山 知 治	流人の島（八丈）
大 谷 正 夫	寺 泊
奥 村 泰 宏	あれから30年
影 山 光 洋	草津白根山 火口湖に硫黄噴出
里 見 力 磨	雪降る市
塩 田 正 男	親子猿
須 田 恒 弘	石 佛
中 島 倍 三	秋日和
野 沢 喜 七	風 景
浜 口 タカシ	北 国
平 本 昌 義	街
田 中 清 隆	幻想の街
佐 治 利 雄	能
高 橋 勤	ぼくのおばあちゃん

第13回神奈川県美術展委員会組織

顧問

日本画

小倉遊亀
中島清之
安田毅彦
山本丘人

洋画

小山敬三
斎藤義重

彫刻

圓錐勝三
高田博厚
安田周三郎

工芸

赤地友哉
各務鑽三
蓮田倚吾郎

書

殿村藍田
比田井南谷

写真

影山光洋
(順不同)

委員会委員

委員長
穴水清彦
副委員長
李家正基
菅原壽雄
竹田道太郎
土屋利保
寺田透
土方定一
三上次男
吉田耕三
六川英一
山本丘人
小関利雄
井上信道
各務鑽三
殿村藍田
奥村泰宏
(順不同)

大賞・準大賞選考委員

穴水清彦
菅原壽雄
竹田道太郎
土屋利保
寺田透
土方定一
三上次男
吉田耕三
李家正基
六川英一人
山本丘人雄
小関利寿一
斎藤信道
井上隆康
伊藤鑽三
各務藍田
殿村泰宏

(順不同)

審査員

日本画

大森運夫
加藤東一
竹田道太郎
月岡栄貴

洋画

石井佐一雄
小関利雄男
坂本周一夫
柴田周利透
田代定一
寺田敬弘
土方益人
平賀茂人
古川益人
山田茂人

版画

相笠昌義
日下賢二
斎藤寿一
島州一

彫刻

井上信道
圓鐔元規
河原明

安田周三郎

立体造形

伊藤隆康
高橋勝之
原口典之

工芸

赤地友哉
大菊昭治
小田垣要司
各務鑽三
上村桑子
小林貢
後藤俊太郎
蓮田脩吾郎
平田徹子
山口寿雄
山田耕三

書

池上鶴洋
佐々木如空
志賀正枝
鈴木小江
溪口幽城
殿村藍田
西川万象

写真

奥村泰宏
影山光洋
田中雅夫
常盤とよ子
永田一脩
浜口タカシ

実行委員

日本画

浅見信夫
*大山鎮響
石川響

洋画

阿部和美雄
荒井茂勉
市川栄一郎
江添元生
小泉金司
*阪本文男
島谷晃司
杉本賢彦
内藤雅彦

版画

*柴田昌一
吉田克朗

彫刻

*金子典義
桑山賀行
毅山三毅
山本正道

立体造形

今井由緒子
*加藤義郎

工芸

*赤堀郁彦
佐野登志子
芝山吉邦
竹内佳夫
永井鐵太郎
中田呂尚
浜田真爽子
松井三郎
松浦松夫

書

*青木香流
岡田扇香
斎藤丹鶴村
重田翠村
島津碧富
吉田蘭處

写真

伊藤藤十郎
*大谷正夫
里見力磨
塩田正男
鈴木健夫
野沢喜七
中島倍三

*印は各部門実行委員長

発行 神奈川県美術展委員会

表紙デザイン・レイアウト 北見タダオ

製作・大塚巧藝社

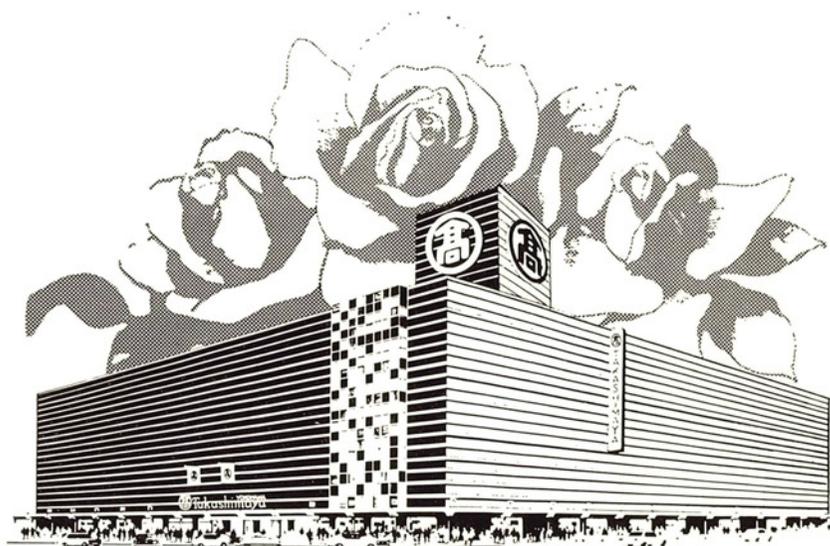


SOTETSU
JOINUS
よこはま西口

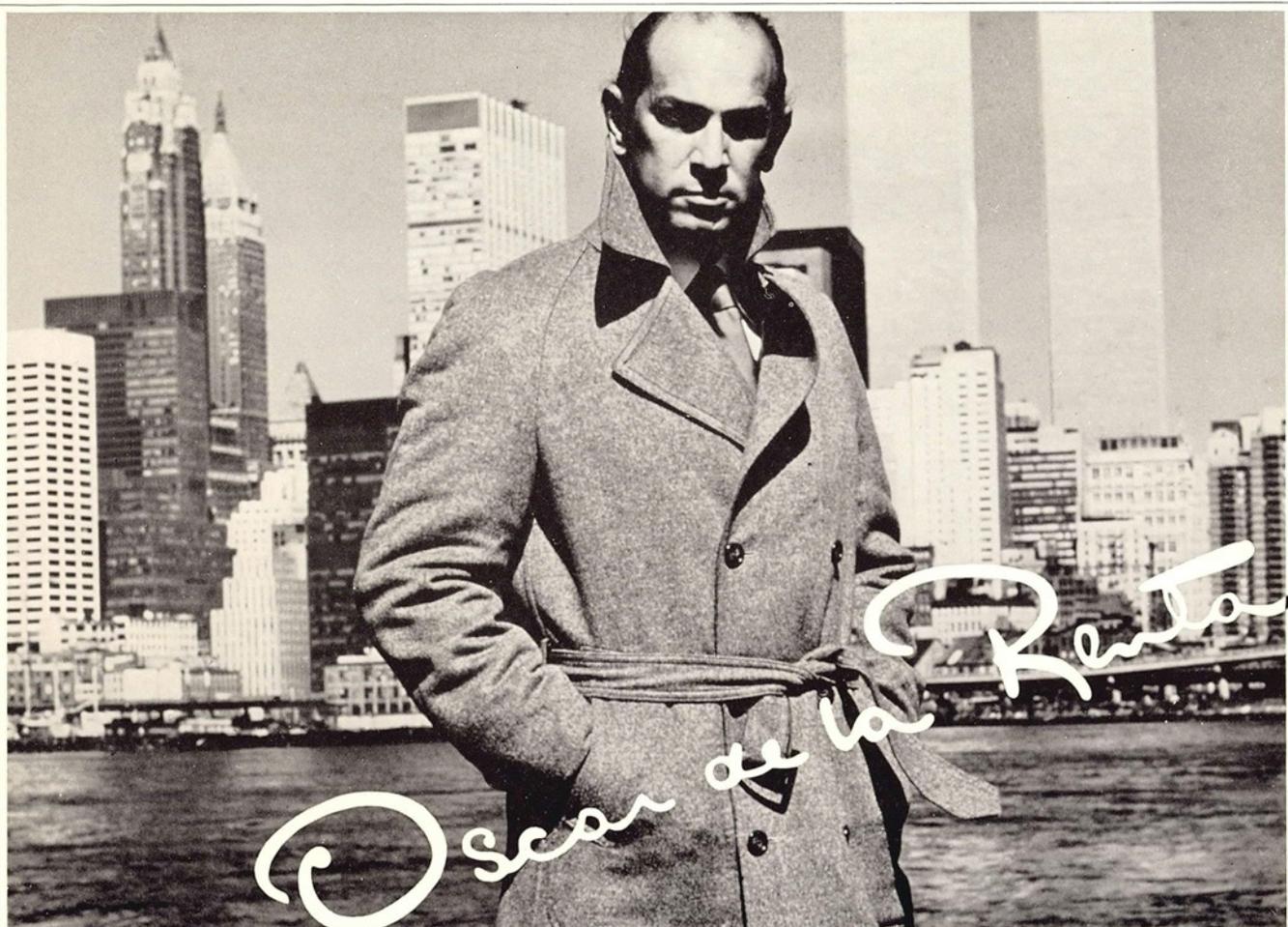
去年より、ひとつ世界をひろげ
ひとつ大人になって
いつもと違う年にしたい。

心|は|ん|ぶ|ん|見|せ|よ|う|か。

確かな暮らしをおとどけする バラの横浜タカシマヤ



水曜定休
横浜高島屋
電話 / 横浜045 (311) 1251



ビジネスを愉しむ男のファッション

◆横浜三越4階

Men's オスカー・デ・ラ・レンタ

ビジネスを愉しむ男のための機能的でエレガントな美を表現するコート。プレーンなデザインが男の優しさを漂わせます。



西口正面

横浜
三越

〒220/横浜市西区北幸1-2-7 TEL.(045)312-1111

望む、比較。

貯蓄の方法を厳しく選択したい時代です。
1分1厘の違いが、結果に大きな差をつくります。
元金が大きければ大きいほど、なおさらのこと。
東洋の貸付信託を、あらゆる角度から
比較されるよう望みます。

東洋信託銀行

横浜支店（横浜駅西口前）(045)311-2421

まとまったお金を加速度をつけてふやす。——

東洋の 貸付信託

- 元金保証 ●一万円単位
- 無記名式もあります。
- 優扱いならお一人元金300万円まで無税。
- お近くの郵便局からもお申し込みになります。
(無料で送金できる振替用紙をご請求下さい)

積立に最適な——

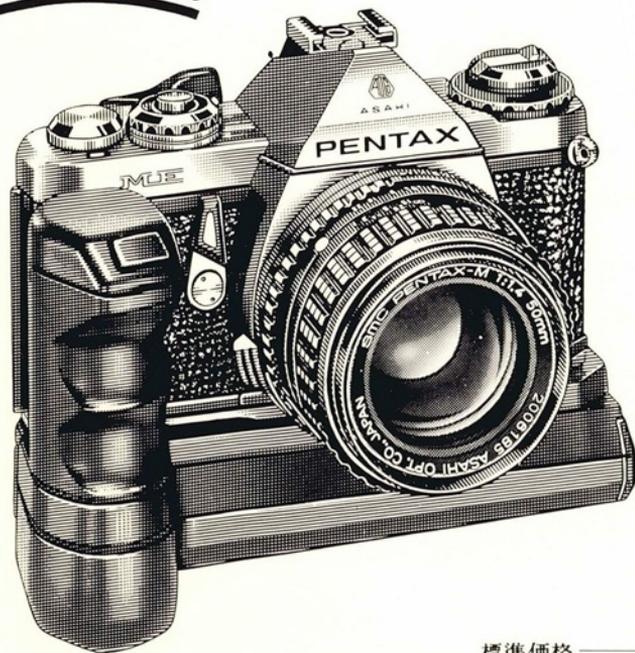
東洋の 金銭信託

- 元金保証 ●1回五千円以上
- ご都合に合わせて満期日が決められます。
- 優扱いならお一人元金300万円まで無税。
- ふやしながらか、なしくずし的につかえます。

お問い合わせは、横浜支店まで、
お電話で。

ワインダー装備で一段と好評、

さらさらいい写真を。



自動マイクロ一眼

- 世界最小最軽量の自動露出一眼レフ
- 16段階のLEDでシャッター速度表示
- 機動性を発揮するワインダーME
- 機動性抜群のバヨネットKマウント
- 小型軽量SMCペンタックスMレンズ

標準価格

SMCペンタックスM 50ミリ F1.7付……………¥69,500

SMCペンタックスM 50ミリ F1.4付……………¥79,400

ケース……¥4,000 ワインダーME………¥23,000

**ASAHI
PENTAX**

MLE

旭光学商事株式会社 〒232 横浜市中区不老町1-4-6 東明ビル旭光学横浜営業所

サクラカラーII

信頼のおける**品質**を

迅速におとどけする

プロ用カラープリント
アマチュア用カラープリント

株式会社 **京浜現像所**

横浜市神奈川区新子安1-22-22

TEL 045(431)7221

サクラカラーII

話題の2つの人気もの

ポストカード

実用新案出願中

KFPカード

- どんな筆記用具でも自由に書け面質の損傷はございません。
- 表面は通信文記入用と住所欄専用の二種類がございます。

標準小売価格 8枚1組1,000円



カラー名刺

KFBカード

- 初対面のあなたをよりイメージアップするカラー名刺で「鮮明な印象・親しみ」をいつまでも与える情報化時代にマッチした製品です。

プリント価格50枚1組1,800円

お取扱い希望店に
焼見本・資料進呈

株式
会社

フジカラーチェーンラボ
神奈川フジカラー

〒241 横浜市旭区川島町2888

TEL 045(381)7111(代表)



さわやか ショッピング



横浜駅西口
ダイヤモンド
地下街

TEL (311)1221
180の有名専門店
380台収容の地下大駐車場



県下随一!!

洋画材料・日本画材料・デザイン用品の専門店。

ヨコハマ馬車道
ユーリンファボリ
TEL.(045)662-1231

4階/アーティストルーム

●洋画材料 ●日本画材料 ●書道用品 ●和紙 ●書籍(美術・書道)
☆額様のイージーオーダーを承っております。

5階/デザインルーム

●デザイン用品 ●デザイン書 ●各種紙類(シート、ロール、カッティングシート)
●イラストボード各種 ●インレタコーナー ●ドライマウントサービス

☆速くて、きれいな印刷《ファボリ・コピントショップ》
あなたの身近な印刷ショップです。お気軽にどうぞ……………

■2F=マイフェイバリットルーム(インテリア小物etc…) ■3F=ブックスルーム
■4F=アーティストルーム ■5F=デザインルーム ■6F=サウンドルーム
■7F=ギャラリー

グループ展に… 個展に…

作品発表の場としてご利用ください。

ユーリンファボリ・7階ギャラリー

※ギャラリーについてのお申込み・お問合せは有隣堂営業企画課ギャラリー係どうぞ。 ☎(045)261-1231

